

「観光まちづくりを通じた地域振興の可能性調査」 結果について

一般社団法人中国経済連合会（会長 荻田知英）は、中国電力株式会社（社長 清水希茂）ならびに公益財団法人中国地域創造研究センター（会長 平野正樹）と共同で、観光まちづくりを通じた地域振興の可能性に関する調査を実施しました。

この度、同調査結果を報告書としてとりまとめましたので、お知らせします。

1. 調査目的

近年、歴史的資源と言える古民家を改修・活用し、地域に賑わいや活気を生み出すことに成功する事例が全国的に増えている中で、中国地域において同様の手法で、地域づくりに取り組んでいる島根県出雲市木綿街道を対象に、認知度調査を実施し、観光まちづくりに関する国等の支援メニューや先進事例に関する情報を収集・整理した上で、木綿街道および中国地域における古民家活用の方策や観光まちづくりを通じた地域振興の可能性の提案を行う。

2. 調査内容

- ・出雲市民、観光客へのアンケート調査
- ・地元行政へのヒアリング
- ・古民家活用の先進事例調査

3. 木綿街道における古民家活用型の観光まちづくり方策の提案

木綿街道に関する市民と観光客のニーズを基に、観光まちづくり方策・整備手法について以下のとおり提案する。

(1) 古民家（空き家）活用の継続的展開

空き家の整備は市民、観光客にとっての魅力づくりにつながり、木綿街道への来訪を促す効果が期待されるため、民間活力による古民家再生の継続的な展開が望まれる。

(2) 古い町並み景観の維持・整備

景観整備については市民、観光客のニーズが高いことから、古民家を活用しつつ保存

することと古い町並みの景観を守ることで市民、観光客の来訪を促すことが期待できる。

(3) 来訪を促すイベント開催

古民家の魅力を知ってもらう機会として、イベントの継続的な展開や古民家を舞台とした新たなイベントの企画、実施が必要である。

(4) 情報発信の工夫

交通事業者やレンタカー会社と連携したキャンペーンのほか、DMOと連携し、広域周遊ルートに古民家宿泊や古い町並みの散策ポイントとして木綿街道を組み込み、情報発信することが効果的である。

4. 中国地域における古民家活用型の観光まちづくりの展開

- ・中国地域で古民家を活用した観光まちづくりを進めるためには、駐車場や町並み景観等の地域全体の環境整備をベースとして、市民の交流施設や観光客の宿泊施設等の古民家活用により誘客を促進し、地域経済循環と持続可能性のある地域形成につなげる事が重要である。
- ・施策の実施に当たっては、準備段階、短期、中・長期の各段階で地元、行政機関、民間企業が連携して必要な手法により取り組む必要がある。

本調査結果は、今後、国・地方の行政機関や観光関連団体への提言等に反映するとともに、当連合会の事業活動に活用してまいります。

- ・本調査結果は、当連合会ホームページに掲載しています。

URL：<http://www.chugokukeiren.jp>

中国経済連合会トップ—提言・要望・報告

- ・調査内容に関するご質問等ございましたら、下記までご連絡ください。

中国経済連合会（担当：元岡、徳永）

(TEL：082-242-4511 FAX：082-245-8305)

以上